



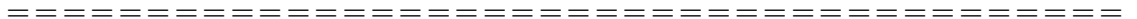
Vol.21～2012.7

こんにちは。梅雨も明け、すっかり夏の雰囲気ですね。皆様猛暑の中いかがお過ごしでしょうか。4月に入部してきた1回生もワンゲルに大分慣れてきたようで、これからの合宿が楽しみです。

さて今回7月号では新歓、一次錬成の2つの合宿について1回生の感想を中心にしてお伝えします。

== Index =====

- 新歓合宿 ～山小屋のありがたみ～
- 一次錬成 ～摩耶山～
- 新入部員アンケート ～1回生に聞いてみました～



■ ─── ■
2012/5/12,13 新歓合宿
～山小屋のありがたみ～

■ ─── ■
今年も新歓合宿で武奈ヶ岳に行ってきました。今回は坊村から武奈ヶ岳に登って暮雪山荘に泊まり、イン谷口へ下りました。1日目は天気がとてもよく、武奈ヶ岳山頂では八雲ヶ原だけでなく琵琶湖も見られて最高でした！2日目は途中から雨が軽く降り、1回生にとってはつらかったでしょうが、それでも楽しんでくれたみたいで、ワンゲルの魅力や楽しさなどは伝わったかなと思います。

(文責：堀)

──
新歓合宿では初めて大きなザックを持って山登りをしましたが、天候に恵まれ、山頂から琵琶湖を見ることができました。また暮雪山荘ではワンゲル流の「いただきます」や、朝五時の「起床！」など、戸惑うことも多かったのですが、大変楽しい山行になりました。

(57期 理1 宮森 由布理)



高校時代までがっちりスポーツをしていなかったの、最初はかなり不安でした。新歓は楽しみでしたが、最初の急なつづら折れの時、正直もう駄目だと思いました。けれど、先輩が後ろから面白い話をしてくれたので、苦痛が和らぎました。そして、僕にとって一番つらかったのは朝でした。朝早くに起きて、ザックに触るとチャックに蜂が付いており、蜂のふわふわしたところに触ってしまって一時間ぐらいテ

ンションが下がりました。でも、最後には普通に楽しめる形で終わることができて感動することができたので、最終的にはプラスです！！

(57期 基1 田原 昌樹)

生憎の雨でしたが、部員の様々な人達、特にパーティーのメンバーとたくさん話が出来た事が良かったです。予想していたよりもコースがきつく、また危険な箇所もあり、ワンゲルの厳しさの一部を知ることができました。ただしんどいだけでなく、その中でどれだけ頑張れるかが問われていると感じました。そして、暮雪山荘というか山小屋の、ありがたみが心から理解できました。山小屋ってサイコー！！

(57期 文1 大塚 駿)

登山経験はほとんどゼロで、初めての 본격的な登山だったので最初はいろいろと不安でした。登山口でいきなり雨に降られたときはテンションが下がりましたが、その後は天気も回復して武奈ヶ岳山頂からは琵琶湖を見ることができ、とても楽しい合宿となりました。また、先輩方はとても優しく、ワンゲルに入ってよかったと思いました。1次練成を経験した今となつては「ハイキング」みたいなものでしたね。



(57期 基1 武藤智太郎)

2011/6/2,3 一次錬成

～別天地～

1回生にとっての初めての錬成合宿、それが一次錬成です。去年エデンの園を追い出され、樂園追放となってしまったワングラーたちは今年、六甲山系の摩耶山に行ってまいりました。1日目は新神戸駅から市ヶ原へ向かい、そこでサイトしました。2日目は摩耶山の山頂へ。暑い中汗をたくさんかきながらも登り切ったその先には、神戸を見渡せる展望が！そして長い石段を下り、ロードを通過して王子公園駅のあたりへ下山しました。1回生は疲れてはいましたが、2日間の長い行程を無事歩き切ってくれました。お疲れ様。

(文責：堀)



初めての錬成合宿で色々な山の技術を教わりました。行く前にワーク練とボッカ錬をやっていましたが、実際に山でやってみると全然違う感じでした。また、初めてのテント泊で心配していましたが、意外と疲労からかぐっすり眠ることができました。それでも朝5時からの登山はきつかったですが、展望台からの神戸の街並みを見ることができて嬉しかったです。

(57期 法1 桑原 真穂)

今回の一次錬成合宿は、昨年のもとは大きく異なったものでした。まず、企画段階から自分達56期が行い、ワークの指導なども今度は教える側の立場になりました。2回になると仕事が増えて大変です。57期が加わって、去年とは雰囲気が違う新鮮な山行をすることができました。幸い雨はさほど降らず、摩耶山の展望台からは神戸の市街地が綺麗に見られました。

(56期 法2 梅澤 啓)

上回生となり初めて下級生を指導する本格的な合宿だったので、慣れないこともあり大変でした。また、去年、自分たちが指導される立場だったことを考えると、もう一年経ったのかと感慨深いものがありました。全体を通して、これぞ錬成合宿といった厳しさもあ

り、夏合宿への準備が始まったのだと改めて感じました。今年の夏合宿も楽しいものにするために頑張っていきます！

(56期 経2 増井 慎一)

部員アンケート

～1回生に聞いてみました～

1回生も新歓合宿、練成合宿と経験し、ワングルのことをわかり始めてきた頃でしょう。そこで今年も、1回生に向けてアンケートを取ってみました。これを編集する中で自分が1回生だったときを思い出して、新鮮な気持ちになりました。皆様も現役だった頃を思い出されるのではないのでしょうか。これらの意見を取り入れて、これからの活動を彼らと一緒にすばらしいものへと作り上げていきたいと思っています。

(文責：松尾)

質問した内容は以下の4つです。

- 1.ワングルに入部したきっかけは？
- 2.どんな活動をしていきたい？
- 3.暮雪山荘の感想は？（正直にね。）
- 4.一次錬成はどれぐらいきつかった？（0-100の数値で答えてね。）

○経 中澤 茂樹

1. 中高とワングルで活動していたこともありますが、元から山が好きだったからです。また、登山以外にも様々な活動ができることも魅力に感じました。
2. 登山はもちろん、無人島合宿など、大学生である今しかできないことをしていきたいと思っています。
3. 水、電気などが通っていなかったので避難小屋のように感じました。
4. 肉体的、精神的なきつさを合わせると70ぐらいです。

○文 大塚 駿

1. 大学生でしかできないことをしたいと思っていた。旅行が好きで、色々な所に行ってみたかった。そんな希望を満たしてくれるのが、ワングルだったから。他にも、部活動だから、適度な運動もできると思ったから。
2. 無人島に行きたい。チャリで、旅をしたい(1週間ぐらい、泊まり歩きたいな感じで)。色々な高山にも登りたい。

3. 山小屋は結構良くて、すぐに眠ることができたし、本当にありがたいと思った。ただ、トイレはせめて換気を良くしたかった。臭いがきつすぎた。出来れば、水も流せるようにしたい。
4. 70。ちなみに新歓は50ぐらい。新歓と同じくらいだと思っていたから、その差に驚いた。予想以上にしんどかった。

○法 金田 宗和

1. 自然を体感したかったからです。
2. のんびり観光とか、夜の山登りとかしてみたいです。
4. 90ぐらいでしょうか。

○法 桑原 真穂

1. 山に登ってから頂上からの展望が見たかったから。
2. 鉾山に登って展望に感動したあとに休養日にボーッとしたい！
3. 行く前に先輩たちに初めて暮雪山荘に行った時の感想を聞いたら「思ったよりも簡素だった」とずいぶんハードルを下げられていたので、実際行ってみてトイレと二段ベットとストーブがあるのを見て感動した。
4. 全部通して平均して60ぐらい。

○基 武藤 智太郎

1. 自分は「まだ見たことがない世界を見てみたい」という欲求が強くて、山の上からの景色には憧れていました。高校のときから、大学生になったら山登りを始めたいと考えていました。
2. 登山以外では、チャリでいろいろなところに行きたいです！
3. もっと狭くて荒れている小屋を想像していたけど、思ったより広くて立派な建物でした。
4. 80/100。

メルマガ7月号はいかがでしたでしょうか。

さて、先月号のアンケートでは、「現役時代に犯した失敗は？」についてお尋ねしました。笑えるものから、大惨事寸前のもので…。読んでいて思わず肝を冷やしたものもありました。一つ気になったものが、ハンゴウに石油を入れて米を炊こうとした人がいたというエピソードでしょうか。中に石油を入れたら、米をどこに入れればいいのか (笑)。ちなみに、今はガスとコッヘルと呼ばれる鍋を使って調理をするので、合宿でハンゴウを使う

機会はありません（もしかしたら、ハンゴウとは何かを知らない部員もいるかもしれません）。

これから大学は夏季休業に入り、ワンゲルは夏合宿の季節です。去年の夏合宿でも北海道に行ったパーティでは、大雨の影響で寝ている間にテントが水没するというハプニングが起りましたが、今や部員の間では川のようになった登山道を歩いて下山したことが武勇伝のように語られています。笑い話にできる失敗ならばよいのですが、相手は自然。笑えない事態にならないよう気を引き締めていきたいですね。次回のアンケートは「印象に残った山行」についてお尋ねします。よろしくお願ひします。

次回は2次錬成と夏祭りの様子についてお伝えしたいと思います。ご期待ください。

アンケートページ：<http://www.ouwv54.org/enquete/enqform1207.html>

ギャラリーページ：<http://www.ouwv54.org/mailmagazine/gallery1207.html>

メルマガ委員：松尾 勇汰、堀 裕貴